

怪獣 母ちゃん 奮闘日記

4人の子どもを育てる母
ちゃんが、家族、子育て、
自分のことなど日常のあ
りのままをつづります。

書く人／辻登志江さん

夫と三男一女(7歳～1歳)と暮らす。「つながり農園」主宰。作業療法士免許を取得して22年。現在は勤めていないけれど、今も自分と家族と社会を作業療法している気分の、自称「現役作業療法士」。44歳なりたてはやばや。

第6回 怪獣1号、小1事情

わが家の怪獣1号が今年の4月から小学校に入学した。彼にとっては人生の一大事。母ちゃんにとっても、小学生の母になる、という一大事だ。母ちゃんの小学生時代は何十年前も前なので、1号を通して小学生体験をすることが楽しみで仕方ない。

毎日、帰宅後にまるで大冒険からの凱旋のように全身で報告をしてくれる。さすが怪獣。話を聞くたびに「へー！」「え!?なんで?」と、言わずにはいられない。新鮮なだけでなく、「ツツ」ミどころ満載すぎる！

初めて通学する日から「一人で行くからついて来んでいい。あとな、荷物(時間割になくても)全部持って行く、持って行ったら教えてくれるかも知れんだろ」と言っておかけた。帰宅後は「今日な、だいぶ歩いたと思ったんやけど、最後に曲がる道がわからんようになってな、おばちゃんに聞いたんよ。小学校どこ曲がったらいいですか、って」「あ、ちゃんと怪しくないおばちゃんやったよー」「ほんでな、道教えてくれて、わかりました！ありがとー！って嬉しくて走ったらな、両手に重たい荷物あるん忘れとって、こけたんよ。荷物守ったら膝ついて血がよーけ出たん。先生が玄関におって、びっくりして保健室ってとこに連れてってくれた。保健室ええじよ！母さんと違って優しいし、ガーゼとかテープとか貼ってくれるんじよ」とな。その日以降も、報告は止まらない。勉強の内容のこともあるけど、

「傘が折れて(ちなみに一学期の間に5本！)近所のおばちゃんが傘に入れてくれた」とか、「学校のトイレに花子さんおらんかった」とか、「廊下を走ったらあかんらしいよ、母さんも気をつけて」ってこともある。

そして、授業参観なるものに行ってきた時のこと。昨年まで外で思いつき遊びまわる幼稚園生活だった怪獣1号が座って喜々として習ってる姿を見て、母ちゃんはびっくりして涙出そうになった。それから、この好奇心のかたまりさんを何十人も見て、全くの一からわかるように教えていく教師もすごいなあと思った。

毎日、楽しそうに行って帰り、今日は何が一番楽しかった？って聴く時間があるだけで、一瞬だけでも平和が訪れる怪獣親子です。

怪獣道は未知で果てしない。



二学期スタートの朝。「早く行きたいから早く撮って！」ですって。

今年の4月。怪獣1号のゆいた、記念すべき初登校。